

次男坊（1953）

メディア 映画
ジャンル 青春 ドラマ ロマン스
製作国 日本
色彩 B&W
時間 93分
初公開日 1953/03/19

【解説】
佐々木邦の同名小説を椎名利夫が脚色し野村芳太郎が監督。1956年には同じ監督・主演で「次男坊故郷へ行く」が製作された。
旧制高校に通う堀尾吉晴は、学友の岩崎悌四郎らとともに料亭へ向かった。教師たちが不正な飲み会を開催していると聞いたのだが、彼らが踏み込んだのは別の座敷だった。吉晴たちは誤って町の有力者をのしてしまい、その責任を取り安藤校長が辞職に追い込まれる。三年後、吉晴は大学生になっていた。証券会社への就職が決まった悌四郎は深窓の令嬢との結婚を決め、吉晴にかつての恩師である安藤への仲人依頼を頼んできた。安藤は校長を辞めた後、吉晴が通う大学の教授をしていた。吉晴は安藤宅を訪れ、そこで片岡道子という女学生と出会う。

【クレジット】
監督 野村芳太郎
製作 小倉武志
原作 佐々木邦
脚本 椎名利夫
撮影 西川亨
音楽 木下忠司
出演 高橋貞二 堀尾吉晴
坂本武 父彦平
土紀就一 兄玉男
英百合子 婆やたき
三橋達也 Tatsuya Mihashi 岩崎悌四郎
日守新一 片岡社長
桂木洋子 令嬢道子
笠智衆 安藤教授
奈良真養 高村教頭
磯野秋雄 留吉
山路義人 横地大三
高友子 鈴木初子
吉川満子 母堂和代
多々良純 毛利部長